

## I 言語行為者の言語技術

### スイミーの特異性

「みんなあかいのに一ぴきだけはからすがいよりもまっくろ」

「およぐのはだれよりもはやかった」

### 伏線

スイミーが黒い→目になれる

泳ぐのが速い →まぐろから逃げられる, 小さな赤い魚たちがスイミーの誘いを断る

### 一人色が異なることへの差別意識

「でも およぐのはだれよりもはやかった」の「でも」という言葉

→一匹だけ異なるスイミーが楽しく暮らしているというスイミーにとっての楽園

→「およぐのはだれよりもはやかった」からこそまぐろから逃げられた

→一人逃げてしまったことへの罪悪感

→孤独と罪悪感から立ち直り, 成長できた自分

→「そっくりのちいさなさかなのきょうだいたち」を助けたいという確固たる目的

→繰り返しの表現

「スイミーは かんがえた。いろいろ かんがえた。うんと かんがえた。」

→自分の能力の封印

「およぐのはだれよりもはやかった」≠「みんないっしょにおよぐんだ」

「ぼくが、めになろう」

### 以前とは似て異なるスイミーにとっての楽園

→「おおきなさかなをおいだした」(おおきなさかな≠まぐろ)

「けっしてはなればなれにならないこと」「みんなもちばをまもること」

自由に泳いで遊んでいた以前とは異なる

### 比喩表現

「からすがいよりもまっくろ」「ミサイルみたいにつっこんできた」

「にじいろのゼリーのようなクラゲ」「すいちゅうブルドーザーみたいな いせえび」

「みえない いとで ひっぱられている」「ドロップみたいな いわ」

「かぜにゆれるももいろのやしのきみみたいな いそぎんちやく」

→スイミーの経験を読み手と共有させる効果

### 視点の混在

語り手視点で書かれている物語だが,

「ところが あるひ, おそろしい まぐろが, おなか すかせて, すごい はやさで ミサイルみたいに つっこんできた」

→スイミーの視点

「ミサイルみたいに」まぐろの速さを表現

「つっこんできた」まぐろの動きを表現

## II 学習者の言語技術

### III 教師の言語技術

#### 表情シールの使用

「この時, スイミーの表情を想像すると, どのような顔だろう」

#### スイミーの作戦の理由

「なぜ危ない方法なのに, スイミーはみんな泳ぐ作戦を立てたのだろうか」

